



「E-NEWS むらやま」で検索または 右記QRコード から、バックナンバーも見るができます。

「 指を・・・ 」

村山教育事務所 総務課 管理主幹 加藤ゆかり

今年もあと1カ月。「村山の教育はどうだったのだろう。今年、私は何をしてきたのだろう。」と振り返ってみました。そして、何か足りなく、何か忘れていた気がする、そんな時に手に取る本を何冊か読み返してみました。「ああ。」私に思い出させてくれたのは、大村はま先生の「灯し続けることば」(小学館)に掲載されている『仏様が、ちょっと指で車に触れられました』というタイトルで書かれた文章でした。大村はま先生は、教育関係者であれば知らない方はいないと思いますが、国語の教員で、退職してからも教育実践を重ねられ、多くの教育者に影響を与えた方です。

「ある時、仏様が道ばたに立っていると、一人の男が荷物をいっぱい積んだ荷車を引いて通りかかった。その時、車がぬかるみにはまり、男が車を何度引っ張っても抜け出せなくなった。男の汗びっしょりになって苦しんでいる姿を見て、仏様は、その車に指をちょっと触れられた。すると車はすっとぬかるみから出ることができ去っていった。」さらに、「こういうのが本当の教師。男は仏様の力のおかげで抜け出せたことを永遠に知らない。男は自分が努力して抜け出せたという自信と喜びをもって車を引いていったのだ。」という話を大村先生が聞いて、深く感動したという内容です。

この文章は、以前、私が尊敬する元校長先生から紹介していただいたもので、その後、「灯し続けることば」を何度も読むことになりました。その元校長先生からは、「仏様の力のおかげだと男が分かたら、男の真の力にはならないかもしれない。教育も同じ。子供が『先生に教えられて』力が付いたと思っているうちは、本当にその子の力になっていないのではないだろうか。大村先生がおっしゃるように、子供が『自分の力で』頑張ってきたという自信から、生きる力を付けるように仕向けることが教師の仕事なんじゃないのかな。だから、私たちも仏様のような指をもてるように励まなきやね。」と教えていただきました。

今年4月20日発行の『E-NEWS むらやま』第254号に、私たち総務課管理担当から「人的な環境づくりを通して、学校の活性化に努めていきます。『信用失墜行為の絶無』に一丸となって取り組んでいきましょう。」とメッセージを送らせていただきました。そして、機会あるごとに『働き方改革の推進』と『若手教員の育成』についても、お願いをしてまいりました。また、多くの学校で授業を拝見しました。

それぞれの立場で、相手に(子供だけでなく)ちょっと指を触れることが必要なときがあるかと思っています。私も、自分の指を見直しながら、管理担当の仲間へ、そして学校や市町教育委員会へ、必要なときに指を触れることができるように精進しなければ、と新しい年を迎えるにあたって気を引き締めたところです。

授業の広場 ~外国語の授業の充実に向けた実践紹介~

学校名：山形市立第二中学校	<単元のゴールとなる言語活動> クラスの友達のことをALTに紹介する。
学年：第1学年	【目的】クラスの友達のことを詳しく伝える
単元名：Unit 6	【場面】他己紹介
A Speech about My Brother	【状況】クラスの友達の意外な一面をALTに話す

ポイント 目的・場面・状況の明確な設定で、必然性のある言語活動に

前単元で、生徒達はALTに自己紹介をしました。本単元では、他己紹介にチャレンジです。ALTが、単元の1時間目に自分の友達のことをクラスに紹介しました。そして、クラスの皆のことをもっと詳しく知りたいとリクエストしました。生徒たちは、ALTに伝えたいという思いをもって、精一杯考え表現しようとしています。

〇〇さんがダンスが得意なことを紹介しよう。
「…が得意だ」はUnit 5で習った”be good at…”
が使えるな。



次の時間のALTへの発表に向けて、グループのメンバーに友達の紹介をしています。“He likes anime.”という紹介に、グループのメンバーが“What anime does he like?”と質問します。発表者は、「あっ、そういうことか!」と納得。メンバーからの質問をもとに、“He likes …”と具体的なアニメのタイトルを紹介に付け加えます。

令和5年度 読育推進ネットワーク整備事業 第1回村山地区読育推進連携講座 いっしょにさがそう!絵本ハンターシーズンⅡどんぐりパラダイス

11月12日(日)、山形県立図書館こどもエリアを会場に開催しました。東北文教大学の学生の皆さんによる季節の絵本の読み聞かせやエプロンシアターをとおして、親子で絵本や秋の素材に触れ、笑顔と笑い声あふれる楽しい時間が流れました。



絵本の中から自分で選んだ秋のキーワードを見つけてビンゴを目指せ!

デッキでの読み聞かせと手遊び歌、そしてクラリネットの音色に誘われて絵本の世界へレッツゴー!

県立図書館の中庭のどんぐりや松ぼっくり、木の実を思い思いに組み合わせ親子で作品を作りました。

お弁当バスが「おはなしのへや」にやってきた!みんなでぎやかにピクニックに出発!

参加者の声

- 「絵本でビンゴ」の企画がとても楽しく、外国の本など新しい本に出合うきっかけにもなりました。お姉さん方との触れ合いも楽しんでいました。今回初めて県立図書館に来る良い機会になりました。
- なかなか子供とゆっくり本に囲まれて過ごす時間がとれないので、今回のような企画はとてもうれしいです。
- 読み聞かせやビンゴゲーム、制作と盛りだくさんの内容で、あっという間の2時間でした。子供と一緒に楽しい時間を過ごせました。子供たちの想像力の豊かさに改めて驚かされ、自主性に任せた方が生き生きと過ごせるなあと感じました。